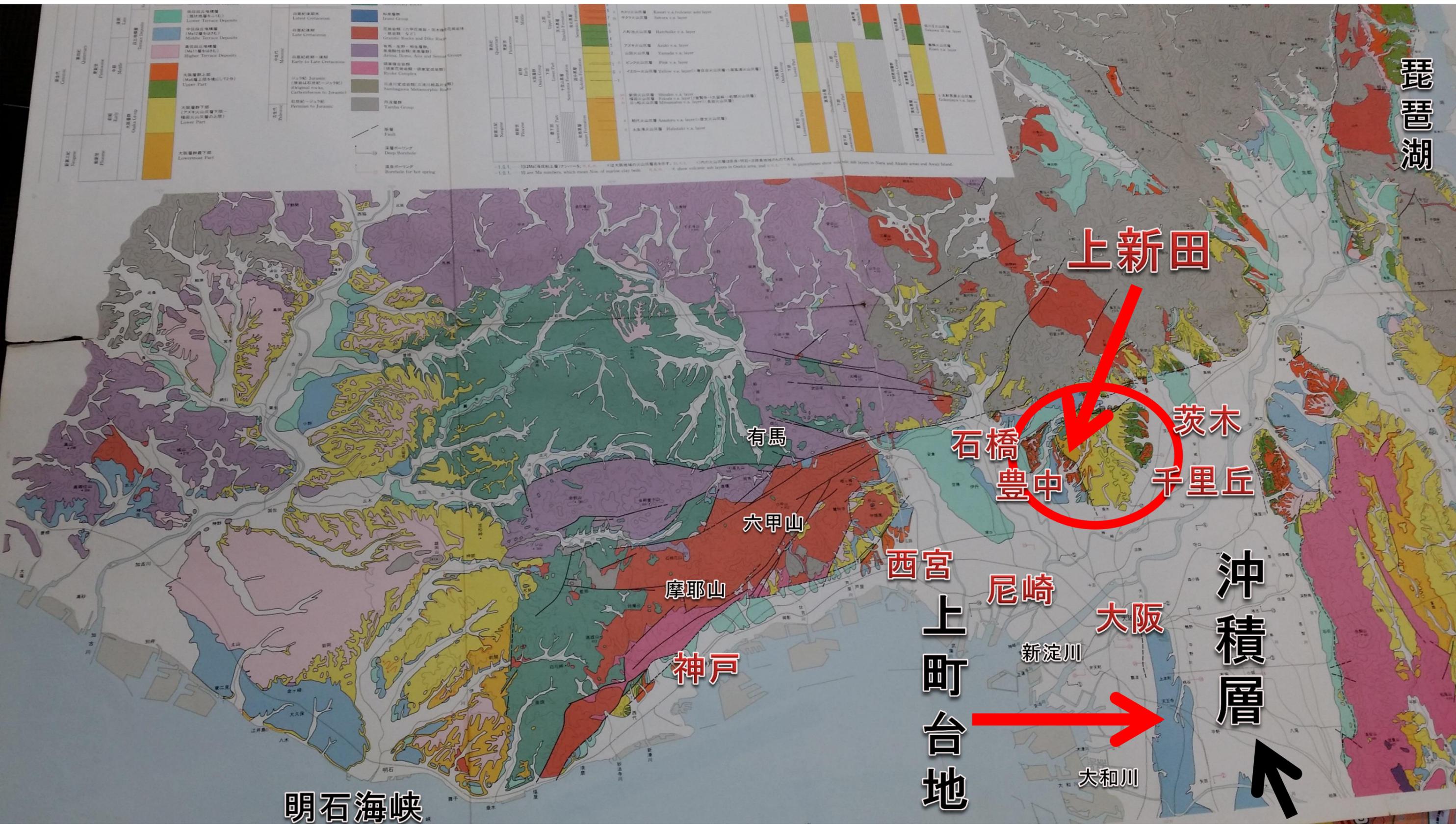


地層の表面分布図 (主に兵庫県・大阪府)



☆沖積層(大阪市などの白い部分)はおよそ1万年の間に出来た新しい地層(長い間海底だった所)。長い周期の地震が発生すると周囲の硬い地盤との間でs波の反射が繰り返され複雑な揺れとなる。

注: 佛念寺山(標高約92m、上新田西約900m)1940年代に消滅

千里丘陵とその周辺の地層



- ☆佛念寺山断層が上町断層帯へ続く(総距離およそ42~44km)
- ☆上町断層での地震はおよそ8千年間隔で発生。
- ☆基盤岩類の地層が最も硬い。秒速約2kmの速度でS波伝播。
- ☆神戸層群でおよそ970m/s
- ☆P波: 約6k~7Km/s、S波: 約3.5km/s



千里丘陵とその周辺の地質模型 1/2.5万

GEOLOGIC MODEL OF SENRI-HILL AREA

| 凡 例 REGEND | |
|--|---|
| 沖積層 Recent Alluvial Deposits | |
| 段丘堆積物 Terrace Deposits | 低位段丘 |
| | 中位・高位段丘 |
| 大阪層群 OSAKA GROUP Pliocene~Pleistocene | 大阪層群 上部 |
| | 大阪層群 下部 |
| | 大阪層群 最下部 |
| 神戸層群 KOBE GROUP Plaeogene~Neogene | |
| 基盤岩類 Basement Complex | 有馬層群 ARIMA GROUP |
| | 花崗(かこう)岩類 GRANITIC ROCKS Cretaceous |
| | 丹波帯の地層 Permian~Jurassic |

※この模型は、市原 実(1991)：千里丘陵とその周辺の地質図，URBAN KUBOTA 30
に基づき秋元 宏(吹田地学会)が制作した(2004年)。

<補足説明>

掲示資料は豊中市、吹田市、摂津市に係る活断層の情報をまとめたものです。上町断層帯は豊中市の佛念寺山断層から42～44km南北に伸びる活断層です。過去およそ8千年間隔で地震が起きていたようですがここ9千年は出ていない様です。ただ2500年程前にあった様な文献もあるようですが(要調査)。

また佛念寺山は標高わずか92mで1940年代以降の開発ですでに消滅しています。新千里南町の東豊中5丁目付近でした。現在、その山の位置と活断層の位置関係がまだ充分確認できていませんので課題として調査継続中です。

いずれにしても今の千里丘陵は上町断層が過去200万年の間何度も何度も地震が起こりその度に東側が隆起して今の位置にある様です。今後この断層で直下地震が起これば約3m程東側が隆起するらしい。

阪神淡路大震災では震災後六甲山が約20cm高くなったそうです。その時のS波がこの上町断層帯の地中深くで隆起した部分にあたり各地層の反射波(地層の成分により波の伝播速度が異なる)が複雑に影響しあい、結果として断層帯の西側の特に豊中市に甚大な被害をもたらしました(別紙資料参照)。